

大切に守りたい 甲賀の里山 ~今年は国際生物多様性年~

▶みなくち子どもの森自然館夏季特別展



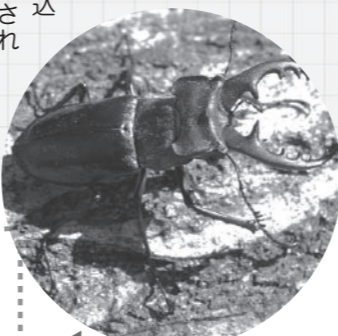
市内でも展示を実施

今年度、県内各地では「ほっとけん！ 淡海の生きもののにぎわい・COP10国際生物多様性年記念巡回展示」が実施されています。これに合わせ、みなくち子どもの森自然館では、夏季特別展「里山は生きものがいっぱい！～甲賀の生物多様性～」を開催し、甲賀市の生物多様性について、約300点の標本や模型、写真を用いて紹介しました。

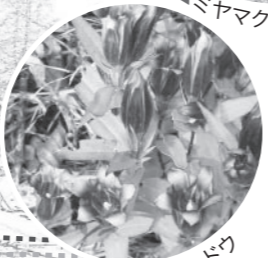
また、甲賀市エコフェスタでも「滋賀発 生物多様性とCOP10」と題し、パネルや写真で紹介するコーナーを設けました。

外来生物による影響も

開発や乱獲だけでなく、近年、豊かな自然環境に生息する在来種が人間によって持ち込まれた外来生物によって脅かされており、甲賀市も例外ではありません。水辺では、アメリカザリガニやウシガエル、ブラックバスなどが自然の残っている場所を次々と侵し、水草や在来の生物を食べってしまったり、生息場所を奪ったりしています。また、かつてペットとして日本に持ち込まれたアライグマも野生化し、市内にも分布を拡大しています。特定外来生物に指定されており、家屋への侵入などの生活環境被害や、農作物被害が深刻になっているため、市でも捕獲に取り組んでいます。



◀ミヤマクワガタ



◀リンドウ

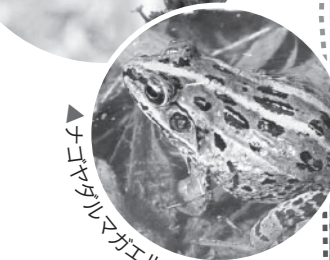


◀ササユリ

甲賀の里山は、森・草地・水辺の環境がセット



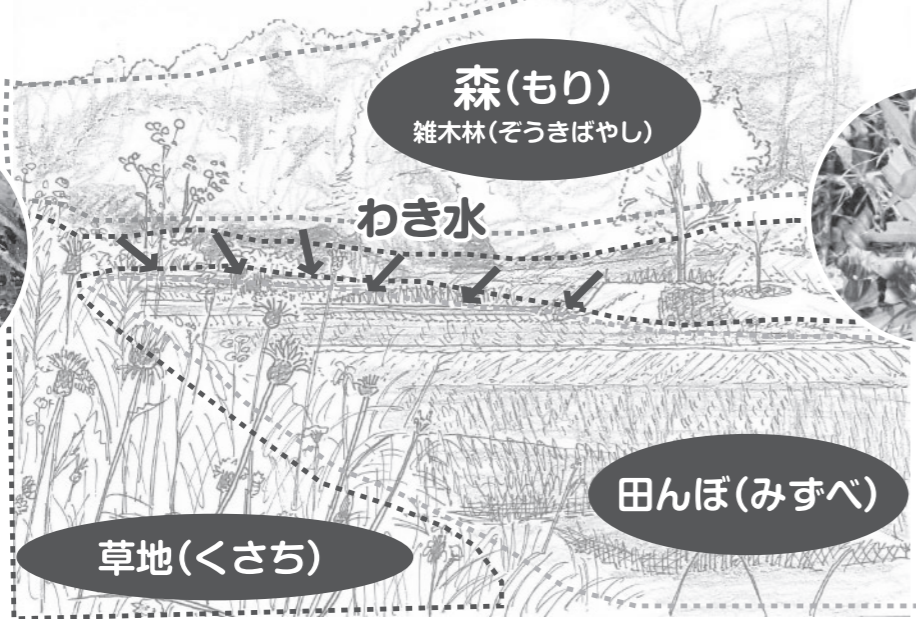
◀ジャコウアゲハ



◀ナニナタルマガエル



◀ミヤマアカネ



地質図から見る 甲賀の里山

古琵琶湖層の丘陵
⇒ 里山の環境が多い範囲

古琵琶湖層は、甲賀市から日野町にかけて、もっとも広い面積でまとまって存在します(伊賀市からつづく)。古琵琶湖層は、古琵琶湖(甲賀には約300~200万年前ごろにあった湖)の底にたまった、粘土の多い地層です。

外来種を駆除しよう アメリカザリガニ釣り

みなくち子どもの森では8月に、外来種の駆除を目的に同森にある池でアメリカザリガニ釣りを行いました。アメリカザリガニは、昭和初期に北アメリカから輸入された外来生物で、日本中に生息しています。強い生命力と繁殖力があり、日本の生態系にも影響を与えています。参加した小学生とその家族は、学芸員から水辺の生物多様性について説明を聞いた後、すめとちくわをえさに釣りを開始。ザリガニがえさに食いつくと、ゆっくりとさおを持ち上げて網で捕獲し、1時間ほどで約60匹が釣れました。参加者は、「食いついても釣り上げる途中で逃げられてしまった」と、ザリガニの駆け引きに難しさも感じたようです。



◀釣り上げたザリガニを網でキャッチ

生物多様性の高い甲賀の里山

古琵琶湖層の丘陵に多い甲賀の里山。ここでは「田んぼ」と「森」が隣り合わせの環境が多く見られ、森林・草地・水辺という異なる環境のセットに、いろいろな生き物がすんでいる、生物多様性がとても高い場所です。さらに、この異なる環境のセットが谷に沿って長く続いていることや、わき水のある小さな湿地が多いことも、生物多様性を高めている大きな理由です。

生物多様性を守るために 私たちができること

市内では、生物多様性を守るさまざまな活動が行われています。水口町北内貴区によるジャコウアゲハ生息地の草原保全、同町松尾のNPO法人による里山保全甲賀町油日の湿原調査・保全のほか、市の花ササユリの保全を目的に活動されている団体もいくつかあります。

貴重な甲賀の生き物を守るために、私たちに何ができるのでしょうか。みなくち子どもの森の河瀬直幹学芸員に聞きました。

ザリガニ釣りを(右ページで紹介)をした子どもの森の池も、以前は水草に覆われ、いろいろな生き物がすんでいました。ザリガニは数が増えると全てを捕獲するのは難しいですが、例えば小さい池なら駆除して地元のメダカを放したり、生物多様性が残っている田や池に外来種を入れないようにするなど、地元でも守っていくことができます。

また、アライグマなどの外来生物に対しては、踏みやすい環境を作らない、えさになるようなゴミを外に出しておかない、農作物には電柵をするなどの対策が必要だと言われています。

里山の保全には人間が関わる必要があります。ですし、人間が引き起こした外来生物の問題も人が取り組むべき問題です。



カスミサンショウウオ▲

平成22年10月15日

平成22年10月15日